

1998年9月18日(金)～10月30日(金)

博物館実習生が展示した寄贈品コーナー

9月9日から9月17日(正味一週間)の間、博物館実習生として17大学20名の学生が実習を行いました。初日は館の概要説明と常設展示についての意見交換をし、2・3日目は各分野に分かれて資料整理を行い、4日目は漂着物を拾う会に参加した後、セミの抜け殻標本を整理しました。残り3日間で、寄贈品コーナーの展示製作を行いました。テーマは「貝塚おしながき 五領ヶ台貝塚の食生活」

10月30日(金)まで展示していますので、是非博物館まで御来館下さい。



体験記

まず私達に与えられたのは多くの資料と3日後の締め切りでした。1日目は何を展示し、どう構成するのか、4つの班にわかれてコンペを行いました。実際に使われる案は4つの内のひとつ。自分のアイデアの生き残りをかけて、熱い議論が戦わされました。多数決によってひとつの案が選ばれましたが、それぞれの案の良いアイデアを拾って行って、最終的にまとまったのが今回の展示です。20人もいると船頭多くして...になりがちなところを明石先生、浜野先生にうまく導いて頂いた気がします。すべてを手づくりで仕上げるにはあまりにも少ない時間でしたが、細かいところにもこだわって実習生らしい展示を作り上げられたのではないかと思います。

展示紹介

展示は3つの小コーナーで構成されています。

海の恵み...縄文時代の人々は海から何を採って食べていたのか。

《魚、貝》五領ヶ台貝塚からは内湾で採れる魚貝と外海で採れる魚貝の両方が見つかっていて、漁

場に恵まれていたことが分かります。今では有明海にしかないハイガイも出土していることを考えると、昔の海は今よりも暖かかったようです。

《イルカちゃん》イルカの骨格標本は、最初は壁に掛ける予定だったのですが、固定するのが難しい、大きくて邪魔などの理由で実現が危ぶまれていました。今はガラスケースの中でニカニカしています。五領ヶ台貝塚だけ

でなく、他の貝塚からもイルカの骨は見つかっています。どのように捕獲したのかはわかりませんが、舟を使って湾内に追い込み、

モリのようなもので刺したのではないかとわれています。

五領ヶ台式土器とは...五領ヶ台式土器の学術的価値と実物の紹介。

《五領ヶ台式土器》五領ヶ台貝塚で見つかった縄文時代中期初頭の土器は、南関東の土器の年代を知るときの目安になっています。五領ヶ台式土器の紋様の特徴は、半分に切った竹を使った爪形文、平行線文です。展示では紋様の紹介もしています。

山の恵み...縄文時代の人々が食べていた山の動物と、植物。

《様々な食物》食物を得るための道具類と、それによって得られたと考えられる動物の骨や植物を紹介しています。植物の遺物は保存状態が良くないと出土されず、五



領ヶ台貝塚では見つかりません。市内では上ノ入B遺跡で縄文時代の球根やクルミが見つかったので展示しましたが、五領ヶ台の人々も口にしていたと思われます。縄文時代に思いを巡らすきっかけになるのではないのでしょうか？

《黒曜石》黒曜石について取り上げて、縄文人の道具へ

のこだわりについて触れてみました。遙か神津島や長野県でとれた黒曜石が平塚から出土しています。縄文時代のネットワークの広さが窺えます。

（実習生：松浦、平川&蓮花記）